

毎月の進路意識調査で進路検討を習慣化。 自ら選び、決定する力を身に付ける

日根野高校 (大阪・府立)

【活用キーワード】 >> キャリア教育 自己理解 進路選択

スタディサプリ& オリジナル教材活用法



●1年次

4月から、総合学習で毎月行う「進路意識調査」のワークシート。①には将来の夢や就きたい仕事を、②の卒業後の進路希望欄には具体的な学校名と学部を書く。③夢を実現するために持っている平日、休日の自宅学習時間を書く。①～③は毎回共通。④には、アンケートや「夏休みの進路実現に向けた取り組み」など、毎回異なる内容が。トさせたのが、独自の「ひねのプログラム」



スタディサプリの「適性診断」の結果も参考に、興味をもった「仕事」や「学問」について「未来事典」と「仕事・学問BOOK」を使って、調べ、まとめていくワークシート。裏面には、「その仕事と自分の未来について」と「未来に向けての自分のアクション」を書き込むスペースがある。

●2年次

4月からスタディサプリの「学校&学部研究BOOK」を使って進路指導。オリジナルの「学校詳細比較ワークシート」や「分野研究ワークシート」なども活用。



●3年次

志望校調べや入試科目調べなど、受験の計画が簡単にできるように生徒に渡しているプリント。



スタディサプリのオープンキャンパスアプリ。予約までできるので生徒から好評という。



オリジナルのワークシート集。生徒全員のワークシートも、個別にファイルされている。「この膨大なデータをよりよい進路指導に活かしたい」と岸野校長。

課題
夢や目標が見つけれない生徒に、どうすれば進路の意識付けができるか

2015年に普通科総合選択制から普通科専門コース設置校となった日根野高校。従来のコースに加えて国公立・難関私大を目指す「アドバンスト人文・社会」、専門性の高い進学を目指す「子どもみらい」、「看護メデイカル」の3コースを新設し、元の保育施設や病院での現場実習や、専門職による授業を行うなど、大阪府初の地域連携教育を実施してきた。同時に力を入れてきたのが、キャリア教育だ。

「進路多様の中堅公立高校なので、真面目でなかなか夢や目標が見つけれない生徒が多い。ともすると『自分はこんなもんと』言いがちな生徒に、がんばれば自分でできることをどう指導するかは、長年の課題でした。そこで、自らの進路を自らの力で発見し、決定する力を身に付けることを目的に2016年からスタートさせたのが、独自の「ひねのプログラム」

活用
毎月の進路意識調査×考える材料で、常に進路を意識する習慣付けを

「進路意識調査は1年生の4月から3年生の1月まで、毎月行います。周囲に感化される生徒の性質も利用し、考える機会を毎月作ることで学校全体の進路意識を上げたいからです。以前は3年次での進路未定者が少なくなりましたが、毎月考えることで、早い段階で『自分で決めた』と言える生徒が増えてきた。これは本当に嬉しいです」と中村愛美先生。

また、毎月の意識調査に加え、外部のツールと進路指導部作成のワークシートをうまく組み合わせ活用しているのも、同校の大きな特徴だ。

「1年では、スタディサプリの『適性診断』です」と進路指導部の野中博志先生。その独自性とは、進路指導部が3年間通した指導プログラムを立て、生徒への進路意識調査を毎月行うことで進路に対する意識付けをしていく点にある。

と「未来事典」「仕事・学問BOOK」を材料に、気になる仕事と学問を選び、調べます。2年では「学校&学部研究BOOK」を使い、進路を具体的に考えます。生徒たちの悩みも深くなりますが、そんなときは1年から積み重ねてきた進路意識調査やワークシートの見直しが可能になります。悩み、考え、乗り越えてきた道が自信になるからです」と赤井佑子先生。

3年次は進路希望別の個別指導が中心。「生徒たちはもう迷いたくない時期ですが、知らなくて損をしたということがないように情報発信をし、進路が決定した生徒には入学後の目標をイメージさせて、夢の実現に向けた努力を継続させることを大切にしています」と、現在3年生を担当している塚花野先生。

進路指導には毎年新しい発見があり、反省がある。それらを加え、1年ごとに進化をさせてきた「ひねのプログラム」で、専門コース選択生の進路実績が着実にアップしたという。進路検討を習慣化させたことで、生徒の意識を変えた好事例である。



校長 岸野圭吾先生 (後列左)
進路指導部 首席総合学習コーディネーター
野中博志先生 (後列右)
進路指導部 1年担当
中村愛美先生 (前列左)
進路指導部 3年担当
塚花野先生 (前列中央)
進路指導部 2年担当
赤井佑子先生 (前列右)

School Data

創立1987年 / 普通科 / 生徒数756人 (男子272人、女子484人) / 進路状況 (2018年3月実績): 大学進学113人、短大進学29人、専門学校進学70人、就職11人、その他16人